

上山市みらいの学校構想（案）への各委員からのご意見一覧・対応経過

※順不同

※当日の説明は割愛します。

※意見・感想に対する対応経過、資料 4②構想（案）への反映を事前確認願います。

■「はじめに」に係る感想・ご意見（P2～3）

No	ページ	委員からの意見・感想	対応経過
1	P2	全体的に文が長く、経緯と方向性が分かりづらい。	記載項目自体は、必要事項を記載する関係上、ご了承願います。なお、各委員の意見を反映しているため、ボリューム・文量があります。（8月時点）重複箇所等もあるため、答申（3月予定）に向け、体裁は事務局で最終調整に向けて文量等を削減したいと考えております。
2	P2	Society5.0 やダイバーシティの言葉が高齢者の方には難しく感じる。注釈やカッコ書きの日本語を付け加えていたほうが良いと感じる。	用語には注釈（※）を付けたうえで、ページ下段もしくは巻末に資料編として、用語解説を設ける予定でおります。
3	P2	Society5.0 をここで記載すると、少し内容が飛躍しすぎているような気がします。（第1章も）	協議結果（骨子案）に基づき、構成しております。また、これまでの市民説明会での説明経過や、関連する上山市教育振興基本計画等との位置づけからも現状どおりの記載を基本に進めさせていただきます。
4	P2 -3	これまでの経緯が十分記載され、特に問題はないと思います。	—
5	P2	冒頭で、上山市教育振興基本計画、基本方針3に触れて、その位置づけの中で進めていることを記載すべき。	ご指摘の通りです。別途修正しております。
6	P2	子どものニーズで「安心して学ぶことができる環境」が第一であり、本検討委員会でもその点を検討した旨を記載すべき	ご指摘の通りです。別途修正しております。
7	P2	修正前 本文 18 行目 「検討委員会」に省略。）を設置。本市小・中学校の～について、「設置し、」と修正して、文章を整える必要はないか。	ご指摘の通りです。別途修正しております。
8	P3	答申の位置づけ（P3）市が責任を持って検討内容を推進するよう、文末を「・・・推進することを強く望みます。」と締めくくった方が良い。	ご指摘の通りです。別途修正しております。

■「第1章 小・中学校の現状と課題」に係る感想・ご意見（P4～12）

No	ページ	委員からの意見・感想	対応経過
1	P4	（1）予測困難な時代への対応・・・が、以降の適正規模及び適正配置へのつながりが見えづらいと思いました。（1）はなしでも良いのでは・・・	協議結果（骨子案）に基づき、構成しております。また、これまでの市民説明会での説明経過や、関連する上山市教育振興基本計画等との位置づけからも現状どおりの記載を基本に進めさせていただきます。
2	P4～	表題に対して、国の動向や上山市の現状と課題が最初から始まるのは違和感がある。前置きとして掲載してから（2）児童生徒数～にしてはいかがでしょうか。（P4～P8）	
3	P4	P4のGIGAスクール構想、P11のICT教育も（情報処理教育）も注釈あったほうが良い。	用語には注釈（※）を付けたうえで、ページ下段もしくは巻末に資料編として、用語解説を設ける予定であります。
4	P8	④中学校生徒の推移 1行目現在～市内に4校ありを3校に訂正願います。	表記載の3校の他、令和7年4月開校の西郷中学校（きらり学園）を含め4校となります。
5	P4	7行目と11行目 「新学習指導要領」「新学習指導要領」を「現行学習指導要領」に修正すべきではないでしょうか。すでに、次期学習指導要領の検討がなされている中で、「新」は不適切	ご指摘の通りです。別途修正しております。
6	P5	2（1）①の表の、令和12年増減の数字は、誤▲4,779人→正▲9,520ではないでしょうか。	ご指摘の通りです。別途修正しております。
7	P8	2行目、5行目、・・・ P10④複式学級（再掲）「編成」を「編制」に修正 「×学級編成」→「○学級編制」	ご指摘の通りです。別途修正しております。
8	P8	複式学級の発生見込「2学年で1学級」という表現がわかりにくい。2つの学年でそれぞれ1学級しかないという意味なのか？2つの学年が一緒になって1つの学級という意味なのか？伝わりにくい。	ご指摘の通りです。別途修正しております。
9	P8	④中学校生徒の推移 「クラス」「学級」という表現が混在しているが、差し支えないか？	ご指摘の通りです。「学級」で統一し修正しております。
10	P8	④中学生数の推移 令和6年5月時点 宮川中学校）「▲70人」は「▲66人」ではないでしょうか？	ご指摘の通りです。別途修正しております。
11	P8	■中学生数の推移の表の上の行 「～から、部活動の地域移行等の～」は「地域展開」の文言の方が適切か？	ご指摘の通りです。別途修正しております。

No	ページ	委員からの意見・感想	対応経過
12	P10	3行目「県さんさんプランの1学級の人数も段階的に35人に移行。中学校は40人」という表現は誤解を生む可能性がありますので、修正が必要です。	ご指摘の通りです。別途修正しております。
13	P10	③山形県の取組の文に「これに合わせ県さんさんプランの1学級の人数も段階的に35人に移行」とあるが、山形県では低学年から少人数学級編制（18人～33人）を段階的に進め、今年度は小学校6年生までこの人数にしているのでは、誤解を招くのではないのでしょうか。	
14	P10	「さんさん」プランについて詳しい情報が欲しいです。	
15	P11	（小学校の現状、中学校の現状の表の上の文章）文章前半では「減少」と言いきっているのならば、「増加傾向」は「増加」と言いきるべきではないのでしょうか？	ご指摘の通りです。別途修正しております。
16	P12	（学校施設長寿命化計画）学校構造躯体の健全性の評価で、上山小学校舎の点数が低い理由を書かなくて良いのでしょうか。	欄外の注釈（※）で各建物の詳細は計画本編で参照ください。と表記していますのでご了承願います。

■「第2章 上山市の小・中学校の将来の基本的なあり方」に係る感想・ご意見（P13～14）

No	ページ	委員からの意見・感想	対応経過
1	P13 全体	「上山市みらいの学校構想」自体を「答申」と考えると「第2章 上山市の小・中学校の将来の基本的なあり方（答申）」の（答申）は不要ではないのでしょうか？以下の章も同じ。	ご指摘の通りです。別途修正しております。表紙の構想に（答申）を追記しております。
2	P13	普遍的な考えとして、子どもたちの切なる願いである「安全・安心な学校」を一番最初にして欲しい。	ご指摘の通りです。別途修正しております。
3	P13	各委員からもあったローカル的な郷土愛を育む教育も付け加えられたらいいのではないかと。	P19 学校の統廃合を進めるうえでの配慮事項（3）に盛り込んでおります。
4	P13	将来的に上山から離れることが予想できるので「上山市が故郷という誇り」を思える教育というのも良いと思います。	

No	ページ	委員からの意見・感想	対応経過
5	P13	多様性、デジタル化、グローバル化も重要だが、基礎的な社会性をしっかりと身につける事も重要な時期と考える。挨拶を大きな声です。字をきちんと書く。他人の話を聞く、自分の意見を言う。また、思いやりの気持ち、人に寄り添う、助け合う等の心を育む事が大切だと感じる。	表記の追加・修正等はいませんが、家庭教育と学校教育の両面において基本となる大切なことであると考えます。
6	P13-14	内容について賛成です。	—
7	P13-14	特になし。異存ございません。	—

■「第3章 上山市の教育環境としてより望ましい学校の規模」に係る感想・ご意見 (P15～16)

No	ページ	委員からの意見・感想	対応経過
1	P15-16	3 学級、25 人程度の基本的根拠が説明されており分かりやすいと思いました。	—
2	P15-16	基本方針や基準等については賛成です。	—
3	P15-16	特になし。異存ございません。	—
4	P15-16	P 15. 16 の青文字 ただし（付帯条件のある場合）の意味がよくわからない。	ただし書で条件を附す場合を想定しています。今回、委員からの意見を踏まえ修正しておりますのでご確認願います。
5	P15	1 の考え方について、「アンケートでは少数意見として1 学級、一定数の2 学級を望ましいとする意見があったことを踏まえた上で、将来的な展望として考えたもの」のような文言は必要ではないか。	ご指摘の通りです。別途修正しております。
6	P16	（P16、破線の四角の中） 本検討委員会が考える適正な学級数は「小・中学校ともに各学年3 学級以上」となっており、文部科学省の標準規模（適正規模）に該当すると記載していますが、文部科学省が示す中学校の適正規模では、各学年4～5 学級となっています。該当しないと捉えられないのでしょうか？	ご指摘の通りです。 破線の四角の中の本検討委員会の考える適正な学級数については、表記を削除します。
7	P16	■理由1 教育の質の向上と個別支援への対応）1 学級25 人以上を基本とするこの理由になっているのでしょうか？ むしろ、もっと少ない人数の方が、一人ひとりに丁寧に対応しやすくなるという考え方もあります。	ご指摘のとおり、より少数の人数にも当てはまる記載ですが、本文はアンケートで1 学級で25 人程度と回答した市民ニーズの理由（自由記述）を要約したものです。また、多人数学級と比較した記載ですので、別途文言を追記しております。

No	ページ	委員からの意見・感想	対応経過
8	P15	【参考・再掲】文部科学省学校規模（適正規模）の標準を見ると、小学校（各学年2～3学級）とあり、P15の保護者アンケートでも1つの学年における望ましい学級数の1番多いのが3学級、次が2学級となっており共通しています。 それに対して、上山市の考える適正な学級数が「小・中学校ともに、各学年3学級以上を基本とします」とあり、整合性がとれていないように感じます。小学校については、文科省の標準規模のとおり、各学年2～3学級が妥当だと感じます。	ご指摘のとおりです。本文及びただし書きの記載を修正しております。
9	P16	適正な児童生徒数について、近年の子どもたちの様子を見ていると多様化が進んでいることを考えると、「1学級25人以上」の「以上」という部分に難しさを感じます。実際、近年の統計を見ると、小学校の学級内に、発達障害の可能性がある子が10.4%、不登校の子が1.7%、不登校傾向の子が11.8%、日本語をあまり話さない子どもが2.9%いるとあり、更に5人に1人HSP（非常に敏感な人）がいるとも言われています。これらのことを考えると、教員の立場からすると多い方がよいとはなかなか言えません。例えば、25人～35人（または、教育山形さんさんプランの18人～33人）など、上限も入れた方がよいと感じました。	ご指摘のとおりです。本文及びただし書きの記載を修正しております。
10	P16	1学級25程度というのは25人までという意味ではないでしょうか。25人「以上」となると今後の学級数の計算などで答え（予想）が大きく変わってきます。	
11	P15-16	適正な学級数や1学級においての人数などが記載されているので、“だから小学校数は○校、中学校数は○校が望ましい”というような記載もあった方が、読む側からするとより具体的な想像ができるのではないのでしょうか。	学校数については、構想骨子（案）で協議したとおり、第3章の理由も踏まえ、第4章の「1 将来の子どもたちに必要な学校数」への記載を予定しております。

■「第4章 今後の取組の方向性として」に係る感想・ご意見（P17～20）

No	ページ	委員からの意見・感想	対応経過
1	P17	1 将来の子どもたちに必要な学校数 ＜総論＞学校建替による大まかな費用、教員の数など、たたき台があると話が進みやすいと思います。	建設場所（市所有、民地）、建設方法・構造、統合校数により、大きな幅で値が変動するため本検討委員会の構想答申後に、市で具体的に検討を進めますのでご了承願います。
2	P17	1 将来の子どもたちに必要な学校数 ＜総論＞小学校、中学校をそれぞれ新しく建てるよりも、小中一貫の校舎を1つ建てる方が予算を抑えられるのか。新庄市の明倫学園（施設一体型小中一貫校）の案も検討してみたい。	統合・小中一貫教育の事例は、次回以降の検討委員会で参考資料として報告させていただきます。各自治体の統合に係る背景や時期等は異なることから、本市独自の事情を中心に検討していく必要があります。
3	P17	1 将来の子どもたちに必要な学校数 ＜小学校＞上小は1学年3クラスまでしかないということを聞き、上小、南小の2校でいくしかないと思う。南小の改修により、できるだけ長く使ったほうが良い。複式学級をなくすことを考えれば、中川小は、できるだけ早めに、宮川小は3年後を目途に統合すべきと考える。 その後、一校統合については、5年ごとに状況を分析し、再検討していくほうが良いのではないかな。	第5回検討委員会以降の検討事項です。
4	P17	1 将来の子どもたちに必要な学校数 ＜小学校＞小学校は2校だと思いますが距離が近すぎだと思います。学区の再編成も要検討ではないでしょうか。	第5回委員会以降の検討事項です。 なお、本検討委員会では、望ましい教育の実現と課題解決の手法として「学校統廃合」を検討していることから、学区の再編成も検討対象です。
5	P18	1 将来の子どもたちに必要な学校数 ＜中学校＞宮川中は、宮川小と同じタイミングで南中に統合し、新しい中学校を早急に計画し、最終的には、新中学校1校に統合が良いと考える。 ＜中学校＞中学校は1校でも良いと思います。部活動について掘り下げていただきたい。 ＜中学校＞中学生の通学方法は全域で自転車OKにしたら良いと思います。不審者や自転車マナーの教育にも繋がります。	第5回委員会以降の検討事項です。

■「第4章 今後の取組の方向性として」に係る感想・ご意見（P17～20）

No	ページ	委員からの意見・感想	対応経過
1	P19 -20	2 配慮事項 不安事項への対応等（人間関係、学習内容、地域との繋がり）	第4回検討委員会で各委員からいただいた意見も加え、配慮事項に記載しておりますので、ご確認願います。（P19-20）
2	P19 -20	2 配慮事項 統合に当たる保護者（当事者）の意見や考えに耳を澄ます。その意見や考えを尊重する事。	

■「第5章 教育のさらなる充実のために統合までに取り組むべきこと」に係る感想・ご意見（P21～22）

No	ページ	委員からの意見・感想	対応経過
1	—	地域学習を維持するための方向性	第4章 今後の取組の方向性として 2 学校の統廃合を進めるうえでの配慮事項に記載しております。（P19-20）
2	—	デジタル化（情報教育）の専門家を外部教員として配置。	施策実現方法の手段の一つとして検討いたします。
3	—	グローバル化＝英語教育という国の指針に基づくのか。上山市独自のグローバル化を模索しても良いと思う（上山市のグローバル化のビジョンを明確にする）。子どもの希望に応えられる選択肢を掲げるのであれば、中国語、ベトナム語、韓国語（県内に住む外国人トップ3）など県内や上山市の実情に合わせた人材育成も必要かと考える。（言語学習の選択）	上山市教育委員会として、市民と共に策定した「第8次上山市振興計画」及び「上山市教育振興基本計画」に基づき、国際共通語として英語教育を第一に考えております。また、その他の言語については教員確保及び教員の働き方改革の面からも難しいと考えております。
4	—	誰一人とり残さない教育のために、教師と生徒の面談回数を増やす。（具体例）生徒の悩みに直ぐ気づけるだけの教員の余裕を確保する。部活の顧問からは完全に外れる体制、教員の働き方の抜本的改革を上山市が県内で先駆けて実施。	教員の余裕を確保するための働き方の抜本的改革、業務方法の見直しについては、令和6年度より取り組んでおります。手段の一つとして、県内初となるゼロトラスト・フルクラウド環境下での教育DXの環境整備中であり、校務のロケーションフリー化など教職員の働き方改革にも繋がるものであります。
5	—	教員の研修強化 （平日⇒4日：指導、1日：研修） 平日の1日は、授業を持たずにデジタル研修やグローバル研修、生徒・保護者面談の日を設けることで、教員のスキルアップが子ども達の学力向上へと繋がる。	児童生徒に向き合うための教員の余裕確保及び学力向上のための教員の研修強化は大事な事と考えております。

No	ページ	委員からの意見・感想	対応経過
6	—	通学手段の検討	第4章 今後の取組の方向性として 2 学校の統廃合を進めるうえでの配慮事項に記載しております。(P19-20)
7	—	学童保育（放課後児童クラブ）の検討。	
8	—	現在、各地域で行われている放課後子ども教室やふるさと学習等、学びの場の環境を充実させて市内の小学生と一緒に体験できる仕組みづくり	
9	—	教員数確保について、働きやすい人員、学級数、学級の定員の検討など、上山市独自でもできると思います。	過去の検討委員会で説明したとおり、教員数は法令に基づき学級数で決定するものであり、市独自でできるものではありません。
10	—	コストだけなら中川小の再利用も・・・ どこの学校にいつ編入するのか。全員なのか。それまでのプロセスは？現時点で授業日数いっぱいなのでは？ アンケート期間も載せると良いのでは？	第5回委員会以降の検討事項です。 アンケート等については、資料編として巻末に掲載します。
11	—	人が少ないからきめ細かい教育ができるなら、人を集めてしまったらできないのではないのでしょうか？アンケートの結果も大事ですが、検討するのがこの委員会の役割だと思います。	各学年3学級、1学年25人程度という基本方針は、アンケート結果を踏まえた上で本検討委員会の協議結果となります。 25人程度の数字も、山形県独自の少人数学級制度で、きめ細やかな指導を通した学力の向上と良好な人間関係の構築を目指す教育山形「さんさん」プランの範疇であります。 また、子どもの社会性を育む視点から学級規模の下限を定めております。 ■小学校：下限18人～33人 ■中学校：下限21人～33人
12	P21-22	「現在の子どものために」と「統合を迎える子どもたちのために」と分けておく必要があるのではないかと。今在籍している子どもたちも当然置き去りにしない訳だが、敢えて書き加えることで、「上山市教育振興基本計画」が生きてくるものと思われる。	ご指摘の通りです。別途修正しております。